

## 2014年3月期通期決算説明会 質疑応答の要旨

### 【定期船事業】

Q1 今年度の運賃・需給見通しを教えてください。

A1 供給に関し、2014年度から2015年度にかけて大型船の供給が続き、2015年度が供給のピークと考えています。また需要に関しては、IMF（国際通貨基金）の情報によると、今後GDPは4%弱伸び、特に欧米が伸びる一方、中国は若干減っていくとのことですが、定期船事業はこのGDPに弾性値を掛けて需要の伸びを推定することも考えられ、2014年度の世界の荷動きは5%弱ぐらいあるかと考えています。特に太平洋航路・アジア-ヨーロッパ航路の伸びは大きいと予想されます。一方、供給に対して需要の伸びがまだ小さく需給ギャップがあり、2014年度の運賃は全体で1~2ポイント下に触れる見通しと考えています。

### 【不定期専用船事業】

Q1 自動車船事業に関し、今後の展望を教えてください。

A1 日本出し輸送台数では今年度は昨年度比であまり変わらない見通しです。自工会が公表している情報によると、日本出し輸送台数が430万台と一昨年に比べて数%下がりその傾向は変わっていかないと考えているので、日本出し輸送だけでなく、三国間輸送にもより注力していきたいと考えています。また弊社の自動車物流事業拠点数は、2008年度20拠点から昨年には35拠点まで増えており、今後この分野にもさらに力を入れていきたいと考えています。

### 【全体・その他】

Q1 営業CFが今後下ぶれた場合に、投資をどう考えていきますか。

A1 今後伸びていく事業にはきちんと対応していこうと考えているので、投資を止めるなどは考えていません。多少営業CFが下ぶれたとしても、資本性のある調達は考えておりません。

Q2 前期・今期の運賃安定型事業の実績と見通しを教えてください。

A2 運賃安定型事業の利益は現在大体1,100億円あります。今後LNG事業やオフショア事業からの積みあがりが見込まれるのは2018、2019年度頃になり、そこから徐々に積みあがっていくと考えています。

Q3 定期船とドライバルク船のライトアセット化の今後の見通しについて教えてください。

A3 定期船は、2019年3月末には全体隻数が減り、その減らす大半の船は長期固定船隊であり、ライトアセット化を推進していきます。ドライバルク船についても、長期固定船隊を中心にこの1年間で合わせて10隻ほど減らしていきますが、スポット需要があるため、場合によっては短期用船投入により全体数が増えるかもしれません。

以上